

**前回 Q&A より**

**消費者という人格化はあるか？** 労働者は労働力の人格化であるが、消費者としては単なる貨幣所有者。消費者としては、社会変革の意識も持てず運動もできない。貨幣所有者として不買運動をすることはできる。

**ワンポイントより**

**メイン vs サイドディッシュの順番のまちがいは、階級視点 vs 非階級視点のことだ。**

①今、新自由主義破綻後の社会をどうつくるか？が問われています。

・トマ・ピケティ: 唯物史観に対抗する「社会史」方法の“新しい社会主義”像。中身は格差を再教育・再分配で縮小。考え方の基本は、効用価値説です。

・吉川洋(ケインズ経済学者): アベノミクス大規模異次元緩和は「すべてが間違い」

②基本的概念のゆがみ・混乱。

岩波小辞典-「価値」の記述の変貌: 「単なる思惟の産物ではなく、商品生産での生産関係の表示であり、人間の意識から独立したという意味で、社会的物質。」1974年まで → 「論理的カテゴリー」(実体はない=観念論)1981年版

「社会民主主義」: 「科学的社会主義に敵対し、社会の根本矛盾を放棄する日和見主義の理論。…ソ連崩壊を科学的社会主義の失敗とみなし、科学的社会主義にとって代わるものとして押し出す風潮が表面化した。」(『社会科学総合辞典』)

白井聡発言: 「社会民主主義も社会主義の一種でしょ」

**第6章 流通費** 生産過程がどの程度入っているかで区分。純粋な流通費・保管費(生産に必要な在庫・非自発的在庫)・運輸—将来社会でも残るか否かで見分ける。

**第2篇 資本の回転** : 資本循環が周期的におこなわれるとき、資本の回転という。

**第7章 回転時間 = 生産時間 + 流通時間**      **回転数(率) = 1年 / 回転時間**

“回転すしは、経済の営みの縮図”      回転を速く → 回転率(資本の通信簿)アップ  
レーンは商品陳列、タッチパネルはカタログ販売。「とにかく回す」に軍配ありか？

**第8章 固定資本と流動資本**

「かたい費用を柔らかく」—移動店舗・ウィークリーショップ。回転を速くし儲ける。(第1巻)「労働過程・価値増殖過程」における、生産資本の中の区分です。

◎価値の生産物への流通の仕方の違いで分ける。性状によるものではありません。

固定資本: 摩滅分だけ、少しずつ流通する。寿命が尽きたら一括補填。(機械・工場)

流動資本: 一回一回、全部生産物に流通する。原材料・補助材料(油・照明など)・人件費。(流通の仕方が原材料費と同じ。) → この区分は搾取をわからなくします。